

2024年度 防災教育チャレンジプラン

安全科と他教科等を横断する
ことで「地震」を考える

大阪教育大学附属池田小学校
安全教育部



発表の流れ

- 本校の実態
- 活動の目的
- 活動内容
- 成果と課題
- 今後の展望

本校の実態

平成13年6月8日

8人の尊い命が失われ、児童、教員15人が負傷する事件が発生。
その後、命について考えることを通して…

平成21年2月

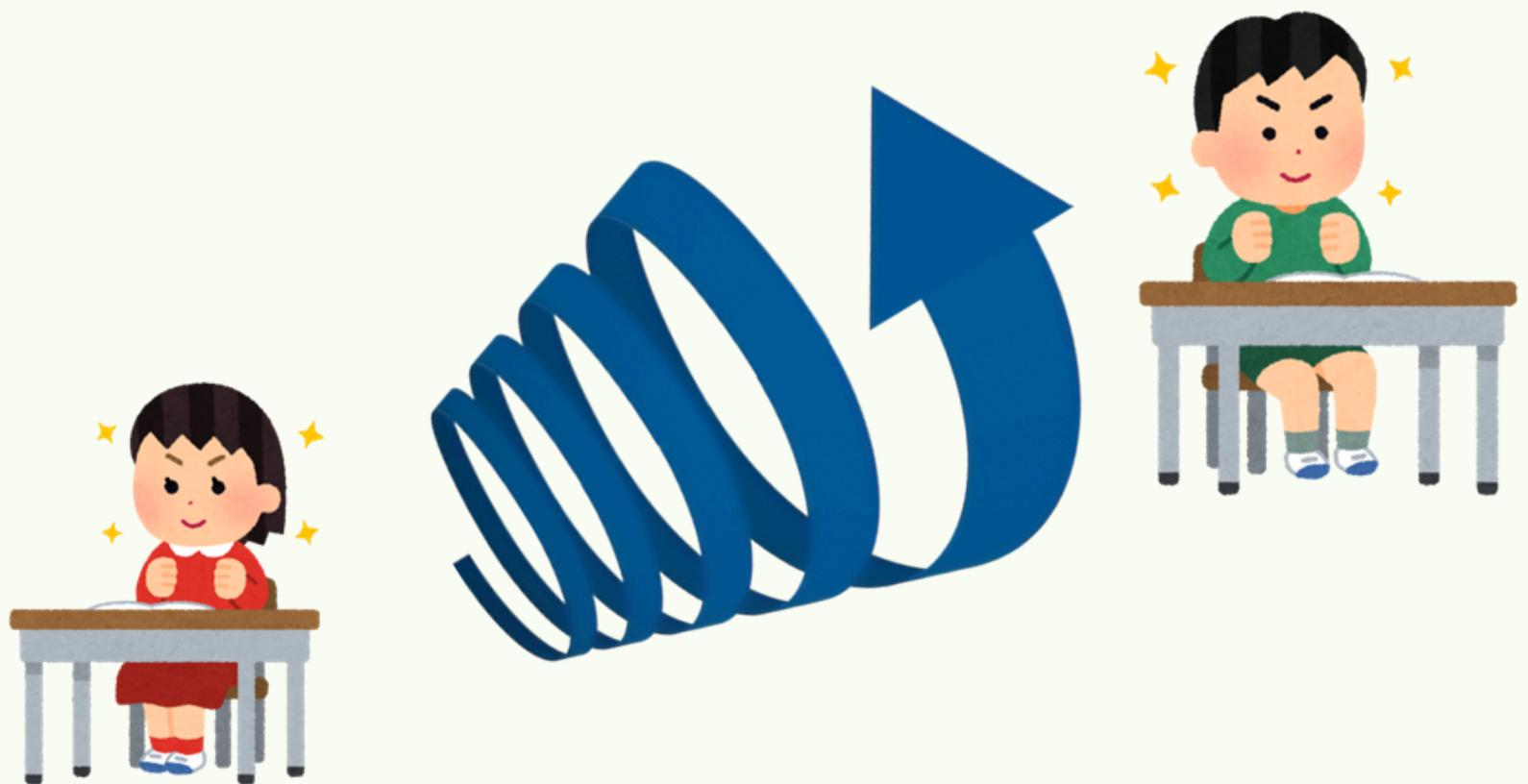
教育課程特例校の指定を受け、「**安全科**」が教育課程に位置づけられた。
現在は**年間15時間**が配当されている。



本校の独自教科である 「安全科」の目標

進んで安全で安心な社会づくりに参加し
貢献できるような資質・能力を育成すること

活動の目的



①学校安全を研究している本校の特色を生かして、その成果を全国に発信していく。

②独自教科「安全科」を生かして各学年網羅的に学習を積み上げ、子供たちの資質・能力を育成する。



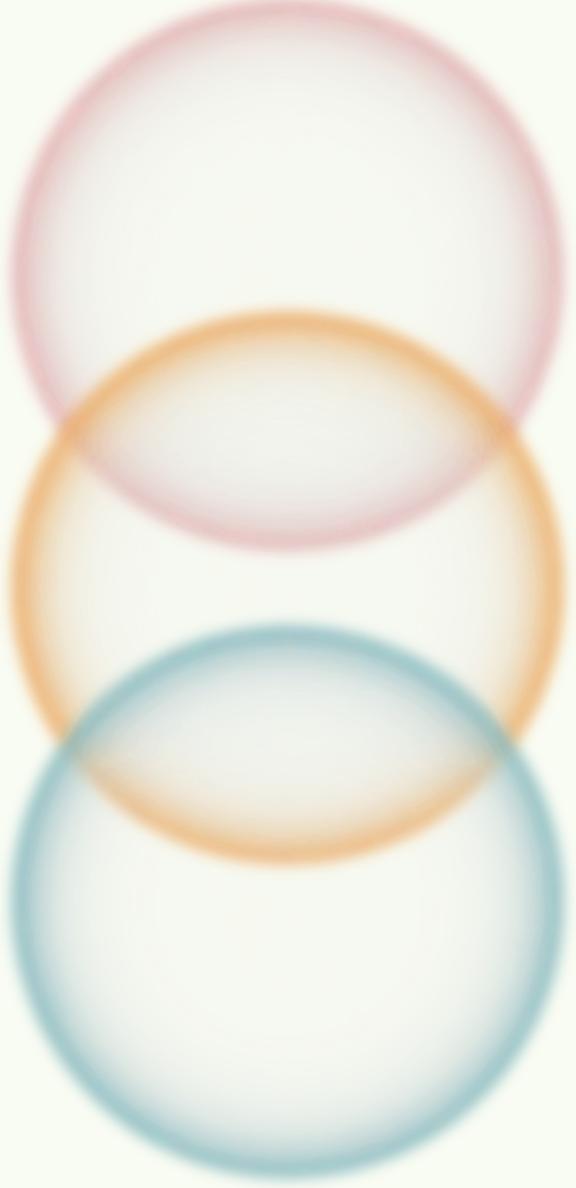
年間カリキュラム

■安全科カリキュラム 年間計画表

★は他教科と連携しながら取り扱うもの

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4月	交通安全教室 ★校舎内の歩き方【生】	校内での安全について	通学路の安全チェック ネットリテラシーを身に付ける	自転車の運転 交通事故の防止	授業とけが①（理科・園工・家庭） ★授業とけが②（調理実習）【家】	身近な人の命を救う（救命措置） ★可燃物を知る【理】
5月	★2年生と一緒に学校探検【生】	★1年生と一緒に学校探検【生】 校内の安全設備を知ろう	自転車の運転（交通ルール）	けがの程度と119番通報 インターネットとさまざまな被害	自転車の運転（加害者にならないために）	感電 安全対策と対処法 ネットと社会①（ネット依存）
6月	★安全な学校生活（施設・設備）【生】 ★安全な学校生活（人）【生】 ★水と仲良く（プール水泳）【体】	校内の安全設備を調べよう 校内の安全マップをつくろう	シートベルトとチャイルドシート 水と仲良く（野外での水遊び）	豪雨と避難 水難事故を減らそう（データから考える）	ゲリラ豪雨への対応 ★大雨からまちを守る人々と技術【社・理】 水難事故について考える	ネットと社会②（ネットと犯罪） ネットと社会③（キャッシュレス社会） 性情報への対処
7月	★安全な学校生活（インタビュー）【生】 ★学校安全クイズをつくろう【生】	★着衣泳（水の怖さを知る）【体】 水と仲良く（家庭内の水の事故） 命を守る行動	命を守る①（犯罪機会論の観点）	★着衣泳（泳ぐ技術を身につける）【体】 熱中症を防ぐ	台風への対応（野外活動中の対応） 落雷の発生と被害 ★熱中症の手当【保】	過去の台風に学ぶ ★身近な人の命を救う【体】 (溺れた人の助け方・着衣泳で)
9月	交通事故の現状 交通事故が起きやすい場所	交通ルール①（実体験から考える） 交通ルール②（交通事故例から考える）	命を守る②（危険な場所を考える）	台風と避難（接近・上陸） 竜巻の発生と被害	★台風の進路と被害【理】 ★食の安全を考える【家】 危険生物 安全対策と対応法	★酸とアルカリ【理】 快速で安全なサイクリング 交通事故が起こりにくいまちづくり
10月	安全な歩き方①（道路） 安全な歩き方②（横断歩道）	安全な歩き方③（すれ違い） 安全な歩き方④（危険の予測）	安全マップ①（安全・危険の観点） 安全マップ②（4視点で危険予測）	身を守るしくみ①（防犯ブザー） 身を守るしくみ②（まちの防犯設備）	情報発信のマナー	★地震の発生メカニズムと被害【理】 ★津波の発生メカニズムと被害【理】 ★噴火の発生メカニズムと被害【理】
11月	感染症①（手の洗い方） 保健室の利用 公共交通機関のルール・マナー	感染症②（手の洗い方 ふたたび） 個人情報を守るために	感染症③（マスクの効用） 安全マップ③（フィールドワーク） 安全マップ④（マップをつくろう） ★消防のしくみ①（消防施設や設備）【社】	感染症④（さまざまな感染症と予防法） 性被害と性加害	感染症⑤（感染症と病原体） 火山現象と噴火警戒レベル	感染症⑥（パンデミックを防ぐ） 火山現象と噴火警戒レベル
12月	安全を守ってくれる人・もの（通学路） 火災を知る	火災から身を守る（避難の方法） 校舎内での大きなかが	★消防のしくみ②（消防署の見学）【社】 安全マップ⑤（情報発信）	校内の防火・消火設備	転落事故の防止	★薬物・酒・たばこ①（体への悪影響）【保】 薬物・酒・たばこ②（乱用を防ぐには）

地震と避難（発生時の安全確保）	地震と避難（緊急地震速報）	地震への備え	地震への対応（外出先での対応）	地震への対応（山・海での対応）	避難場所での生活と復興
IDとパスワード管理					
2月	自分の身を守る行動 公園や建物の中での行動	ルール・マナー 守る方法を考える ルール・マナー 考えたことを発信する	火災を防ぐ	住民の防災と対応 ★スホーフとけが【保・体】 ★手当の方法の理解と実習【保】 噴火と避難	安全な校内づくりの提案をしよう
3月				津波と避難 津波 予報・警報の種類 ★自然災害とわたしたちの社会【社】	★SDGsを達成するために【社・総】



活動の内容

「地震」について焦点化して取り組み各学年の系統性を見直すと共に他教科との関連についても整理した。

- ・カリキュラム検討
 - ・育成したい資質・能力検討
- * 他教科横断を意識して→発信のために

活動の内容①

★カリキュラム検討

「地震」と一言でいっても時間的な捉え方をしてみると
以下のようになる。

- ・ 地震前（防災）
- ・ 地震発生時
- ・ 地震後（減災）

備えや想定を発達段階を考慮し、どのように学び
「命を守る」ことにつなげていくか検討した。



各学年カリキュラム表（例）2年生

実施予定	特活	体育	安全科	生活科	
4.5			「安全」とは？		
			安全と子供達		
6			6月8日安全授業	通学路を歩いてみよう	生活安全
7			家庭内で水の事故		
	着衣泳		水泳		
9・10			交通ルール①	通学路を歩いてみよう	交通安全
			交通ルール②		
11			安全な歩き方		
			安全な歩き方		
12			感染症		
			個人情報		
	避難訓練		火災から身を守る		
2	避難訓練		地震と避難	通学路を歩いてみよう	
他教科と単元を組むことの 重要性！			・マナー①		
			・マナー②		
					災害安全

活動内容②

育成したい資質・能力を再検討

③2024年4月安全科における資質・能力

【獲得する資質・能力】

- ・日常生活全般における安全確保のために必要な知識と経験の習得。
- ・自他の生命尊重を基盤として、生涯を通じて安全な生活を送る想定力や判断力等の基礎を養う。
- ・進んで安全で安心な社会づくりに参加し、発信し、貢献できる人間性を育む。

活動内容②

発達段階を考慮して

	知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性等
低学年	生活の中で具体的な活動や体験を通して命を守るために必要なことに気づくための知識・技能の習得	自分の命を守ることに関して身の回りのことを気にかけ、比較したり、分類したりしながら安全な生活を送るために必要なことについて具体的に想定したり、判断したりしたことを表現する基礎を養う。	身の回りの安全について進んで考え、自分ができることは何かについて考え続ける態度を育む。
中学年	日常生活において安全に生活するための方法を知ると共に常用に合わせて動ける技能を身に付ける	自分の命、仲間の命を守るためにどのようなことが必要か状況に合わせて想定し、判断することをくり返し、行動に表すことができるよう基礎を養う。	自分の身のまわりだけでなく、社会との結びつきにも触れながら安全について考える態度を育む。
高学年	日常生活全般における安全確保のために必要な知識と経験の習得	自他の生命尊重を基盤として、生涯を通じて安全な生活を送る想定力や判断力等の基礎を養う	進んで安全で安心な社会づくりに参加し、貢献できる人間性を育む。

活動内容③

他教科等横断

それだけでなく日常生活と…

学年	単元名	他教科等横断
1年	もしも、地震が起きたら…どうやって身を守るのだろう。	生活科
2年	地震が起きたら時間や場所によって命の守り方は違うのか。	生活科 異学年交流
3年	地震が起きた時に自分ができることはどんなこと。	社会科 総合的な学習の時間
4年	これまでの地震の被害から学びその時自分ならどうする。	社会科 総合的な学習の時間
5年	「いざ」という時にみんなで助かるために…	社会科 理科 総合的な学習の時間 道徳科
6年	安全・安心な社会をつくる一員として自分にできることを考えよう。	社会科 国語科 道徳科 総合的な学習の時間

活動内容④

避難訓練に系統性を

全校で取り組むことである。学校としての方向性を確認できる場として・・・

- ①避難訓練の際には、毎回目標の設定と振り返りを行う。
- ②地区別で避難訓練の振り返りをもとに話し合う時間を設定する。
- ③時間・場所等が異なる訓練を想定する。

	予告	時間	場所	備考
①避難経路の確認		授業中	教室	避難の基本の確認
②火災避難訓練	あり	授業中		
③地震避難訓練①	あり	8時30分もしくは 10分休憩	教室 WS（移動中）	地震の基本
④引き渡し訓練	あり			暴風雨想定等 保護者と確認
⑤防犯避難訓練	なし	中休み・昼休み	それぞれ	防犯の基本
⑥地震避難訓練②	なし	そうじ時間	それぞれ	

時間

場所

活動内容④

避難訓練の子供の様子

避難訓練のめあて＆ふりかえり 【全校での取り組み】

6月20日（木） 火災避難訓練

名前【 】

全体のめあて：落ち着いて避難できるようにする。

めあて：行うべきことの優先順位を常に考える。

ふりかえり

今回の避難訓練では、今やるべきことを常に考えることができました。

しかし、少しでも早く外にでなければ、と思いすぎて、放送を聞かずに「走って」廊下に出てしまい、今考えると、他の人が画面を出るときに転んでしまっておかしくない状況だな、と私は考えました。

だから、次の避難訓練をするときは、素早く行動するが、他の人のことも考え方ながら正しい行動をしていけたらいいな、と思いました。

また、私が早く廊下に走り出した行いは悪い行いではないが、優先順位として「まず放送を聞く」ということをして、周りの状況も分かっておかなければならぬ、ということを学ぶことができました。

この教訓を、これから避難訓練のときには、どんどん活かしていきたいな、と思いました。

また、やり直しのきく「避難訓練」で、120%の自分の必要な仕方を身につけ、本当に避難しなければならないときに、100%の自分の必要な画面ができるようにしていきたいな、私は思いました。

全校生徒で集まつたときには、確実に備つことができた。一生懸命少し座っていたところからの人たちは話していましたが、そのような、座さなければならぬ行動を、自分たち高学年が注意していくべきしなければならないだと、私は考えました。

9月 2日（木） 地震避難訓練①

名前【 】

全体のめあて：「まず低く、頭を守って、動かない」の基本を自分の状況に合わせて実行する。

めあて：できるだけ素早く行動する。

なぜなら、自分の行動が遅いと、自分だけでなくあとから逃げてきた人たちまで逃げ遅れてしまうかもしれないから。
遅い人が一人でもいるだけで、多くの人の足を引っ張ることになるかもしれない。

ふりかえり

今回の地震避難訓練の中で、前回の火災避難訓練の大失敗だと思ったことと対照することができることに気付いた。それは、時間により安全で素早く移動できる経路を判断し、それを地震警笛がなっているという状況の中で実行できるかということだ。

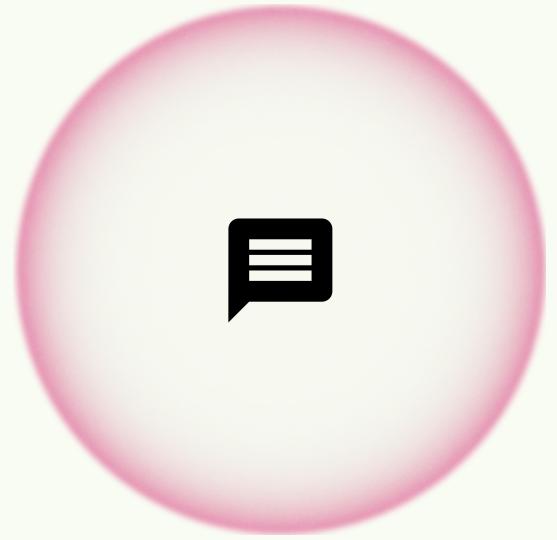
私は、警笛が鳴ったときは一瞬車に寄っていました。その時に思ったのは、もし本当に今地震があったとして、みんながうるさくしていて警笛が鳴っている音が聞こえなかったときのことを考えた。そうすると、慣れた時にバランスを崩し、転んでしまうと想像した。だから、たとえ他の休み時間という状況だとしても、放送が聞こえないほどの大きさを声を出すようにならないようにしました。

また、警笛が鳴らなかったすぐ後、私は真っ先にスタジオに入った。そして、まだ車の安全を取っていない間に向かって「スタジオに逃げて！」と呼びかけた。このようなことを行動に移したことにははじめてで、今まででは上の学年や先生が言ったことにただ従うことしかしていなかった。でも今日は、高学年としての役割をもち、他の人がより速やかに避難できるよう声掛けができると私は思っている。

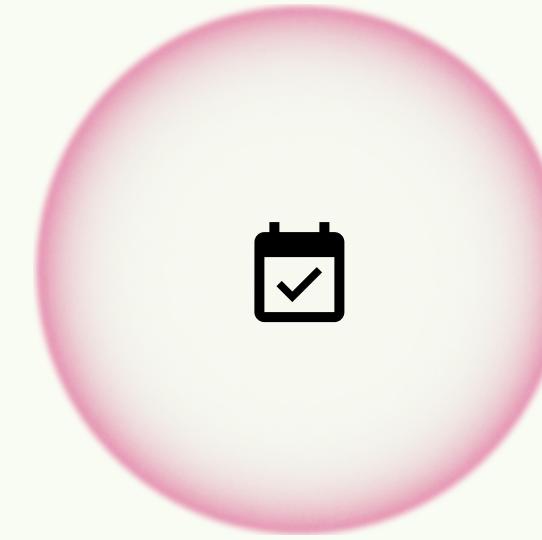


～成果～

[議題のページに戻る](#)



「地震」において
安全科の学習を
体系化できしたこと
・カリキュラム整理

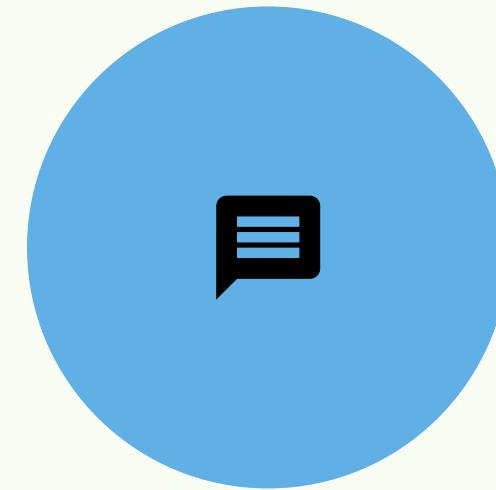


育成したい子供の姿を
明確にすらことができた
・資質・能力表の整理



教員と協働
全校生で共有する時間
学校として取り組む姿勢

～課題～



発信にまでは
至っていない
*外部連携はできている



継続のシステムの構築

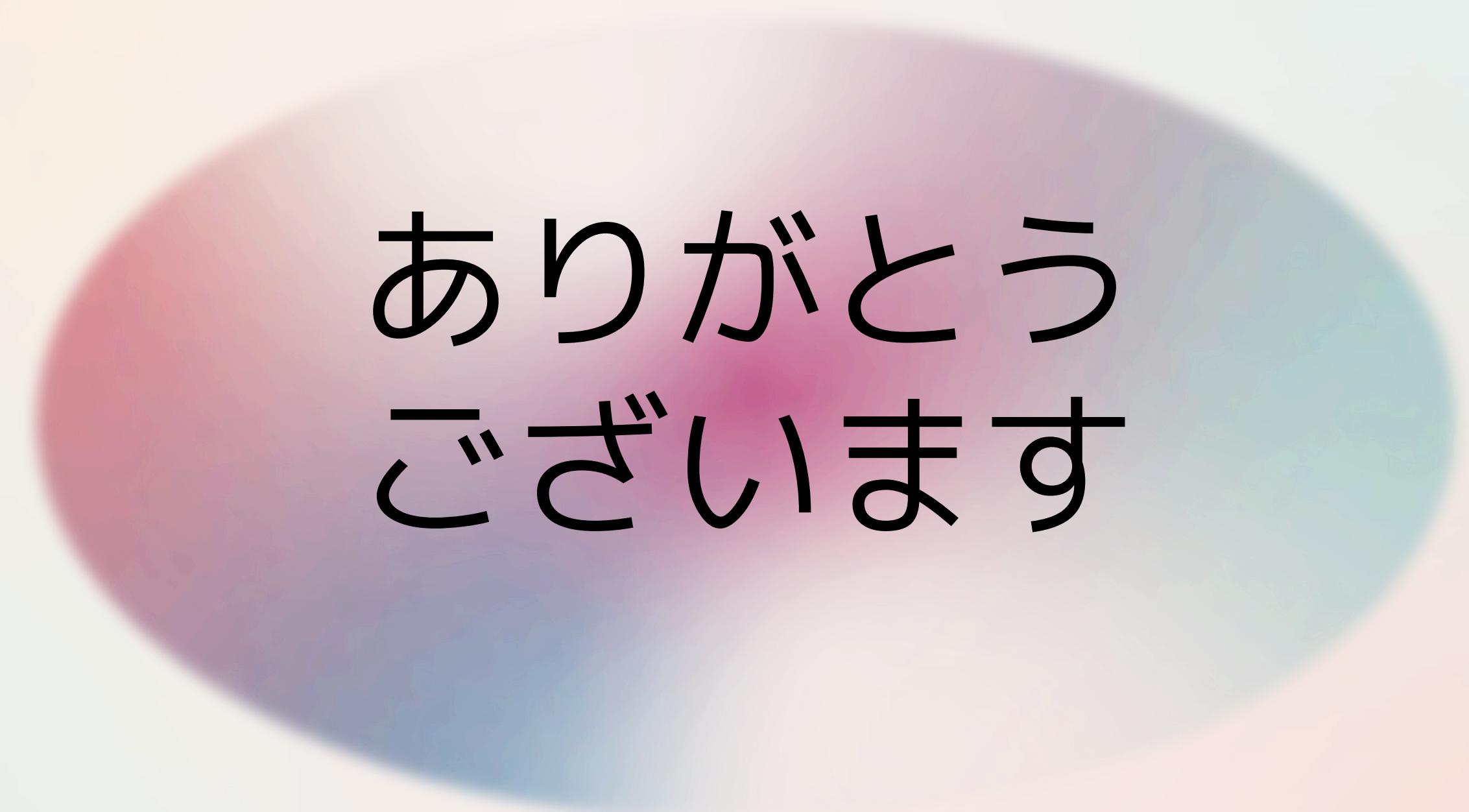


今後の展望

継続的なカリキュラム見直し等の
システムの構築

持続可能な「安全科」へ

他校への発信・協力校の依頼



ありがとうございます